

その情報、本当に正しい？

1 学習対象

小学校4年生～6年生

2 ねらい

インターネットを中心とした様々な情報の中から、どの情報が正しいかを判断できるようにする。

3 準備するもの

○テレビ（NHK for School の番組が視聴できる環境）

○ワークシート

4 解説

インターネットは誰でも気軽に情報発信ができるため、思い込みや誤解、未確認の情報であってもそのまま公開されている場合があります。発信者が悪意により嘘の情報を拡散させることもあります。

インターネットの普及により、私たちはさまざまな恩恵を受けている一方で、チェーンメールやフェイク動画などのように、その情報を拡散させたことによって、自身が加害者になってしまうリスクもあります。また、知らないうちに自身が被害者となるリスクがあることも理解しておかなければなりません。万が一、チェーンメールやフェイク動画などの被害に遭った場合は一人で悩まずに、しかるべき機関に相談して具体的な対策を講じることが大切です。

「ディープフェイク」とは、AI（人工知能）など高度な合成技術を用いて作られる、本物と見分けがつかない精巧なフェイク動画をさします。AIが可能にする機械学習の手法のひとつ「ディープラーニング」と「フェイク」をミックスした新造語です。ディープフェイクの問題は、本物と錯覚させる精巧な作りだけでなく、拡散されることによって引き起こされる社会への悪影響です。

ディープフェイクを見抜くためのAIの研究が進んでいる段階ですが、AIが進化すればディープフェイクもより精巧になる「いたちごっこ」の状況が続いています。ディープフェイクに対する最も有効な対策は、見る人のリテラシーや意識を高め、拡散に協力しないことです。

NHKの番組の視聴をもとに、フェイクニュースについて理解し、巧妙で悪質なネット上のウソに気づき、広めないように、フェイクニュースを目にしたときの注目ポイントを学びましょう。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	◆学習の確認（3分） 授業の流れや留意点の説明を聞く。 ◆アイスブレーキング（7分） 「たくさんの種類を見つけよう。」 ①〇〇の種類を出し合おう。 例）チョコレートの商品名 かき氷のシロップ カップラーメンの商品名 など ②グループで出し合った個数を全体で共有する。	- 授業の流れを簡単に説明する。 - P4【学習の約束】を伝える。 3～4人のグループでお題にあるものの種類をなるべく多く出し合うように伝える。 - ほかのグループで思いつかなかった少数派の種類があるときには紹介させる。	
・一つのものでも、たくさんの種類があり、人によって着眼点が違うことに気づく。			

展開 30分	◆アクティビティ（30分） ①NHK for School「そのニュース広めて大丈夫？ ～フェイクニュース～」を視聴する。【約10分】 ②番組を視聴して考えたことやわかったことをワークシートに書く。 ③よい（許される）フェイクニュースはあるのか考える。 ④フェイクニュースを拡散しないためには、どのようにしたらよいかを考える。 ⑤全体で共有する。	・ワークシートを配付する。 ・ウソの情報を見分けるコツは何か考えを促す。 ・許されるフェイクニュースはあるか考えを促す。 ・どんな理由であってもウソは許されないことをおさえる。 ・デマを拡散することは、結果的には社会を混乱させてしまうことに加担することになっている。	・ワークシート ・動画
まとめ 5分	◆まとめ（5分） ・「情報発信をする場合の注意事項」の資料を参考にするなどして、まとめの話を聞く。 ・メディアの情報とこれからどのように付き合っていったらよいか、考えたことを書く。	・授業をとおして児童から出された考えや記述をもとに、ねらいをおさえ、まとめる。 ・情報が正しいかどうかの判断が必要であることをおさえる。	・フェイク動画やフェイクニュースについて知り、ネット上のウソに気づき、話し合いを行うことで、正しい情報であるか判断できるようにする。

<参考資料など>

NHK for School「そのニュース広めて大丈夫？ ～フェイクニュース～」

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180465_00000

その情報、本当に正しい？

() 年 () 組 () 番 名前 _____

○番組を見て、わかったことや考えたことを書きましょう。

○よい（許される）フェイクニュースってあるの？あなたはどうか考える？

ニュースはフェイクでも
自由に発信してよいどんなフェイクニュースも
禁止すべき

○フェイクニュースを拡散しないためには、どのようにしたらよいか、考えたことを書きましょう。

○メディアの情報とこれからどのように付き合っていったらよいか、考えたことを書きましょう。



情報発信をする場合の注意事項



情報発信の注意点

インターネットで情報発信をする際には、掲示板、SNSなどに機密情報・個人情報を書き込まない、誹謗中傷をしないことが重要です。これは自分の情報だけではなく、家族や友達などの情報についても同じです。インターネットに書かれた情報は広く公開されるため、その情報が悪用されて思わぬ被害を受けたり、プライバシー侵害が起こったりするためです。一度流出した情報は、完全に消すことはできません。

そのほか、不注意な発言により、多くの人から非難を受けたり、自分や所属する組織（学校、部活動、チームなど）の評判を失墜させたりする事態を招くこともあります。

書き込む内容や情報を公開する範囲、その結果どのような影響が起こるのか、常に意識をしながら、情報発信をするよう心がけましょう。

発信内容は慎重に

SNSなどのツールは、日常生活の中で、リアルタイムでの個人の思いなどを投稿できる点が大きな魅力です。その一方で、個人の何気ない発言でも、インターネット上の発言やふるまいは、多くの人目に触れる可能性があり、場合によっては、現実世界に大きな影響を与えることがあります。

例えば、AさんのSNSへの投稿が、本来は秘密にしなければならない友達グループの内容を外部に漏らしてしまう結果となり、インターネット上でAさんに非難が集中したり、そのグループみんなの問題として取り上げられる事例が発生しています。このような場合、しばしば、インターネット上のその問題に関心を持つ人の間で責任追及活動が行われ、その過程で、非難の対象となった個人の特定・暴露や、誹謗中傷などの大量の書き込み（いわゆる「炎上」）などの行為が行われます。そして、インターネット上でこのような現象が発生した場合には、新聞やテレビなどのマスメディアで報道されることも珍しくありません。

こういった危険性を回避するためには、まずは自分のインターネット上での発信内容が、本来秘密にしなければならない事を含んでいないか、現実世界でも非難を浴びるような内容でないかなど、毎回立ち止まって考える慎重さが必要です。

さらには、こうした個人の特定が行われるのは、SNS上の情報発信だけではなく、悪ふざけのつもりで投稿された動画から、投稿者の特定が行われ、現実世界での謝罪に至った事例も発生しています。今やインターネットは匿名の空間ではなく、インターネット上の行動は特定されてしまうものだとすることを自覚することが必要です。

（参考資料）

「国民のためのサイバーセキュリティサイト」（総務省）

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/kokumin/index.html